

月刊 おかじょうき

<http://www.okajoki.com/>

58654

川柳ステーション
2019

2019

8

川柳ステーション 2019	18
無人駅鑑賞「カンテラ」 むさし	4
会員雑詠集「無人駅」	9
■例月句会結果■	
十和田たてがみ川柳会 6月句会報	31
川柳吟行会「ぼ」 滋野さち	34
■作品鑑賞■	
—奈良一艘がとことん深読む— 「深艘心理」 奈良一艘	8
Infomation	31～
第24回 杉野十佐一賞 作品募集	裏表紙

「無人駅」抄

カンテラ

おかしょうき川柳社代表

むさし

今年はどうなるんだろう、と黙っていた川柳ステーション2019、いや「川柳コロシウム」であるが、どうやら無事に終えることができました。

記念につくったチョコレート「オリジナル小枝」(森永製菓株式会社)はいかがでしたでしょうか。

感想文をご執筆いただきました方々ありがとうございました。

なお、動画サイト「YouTube」に映像がアップされていますので、やむなく参加出来なかった方もどんな様子だったかを見ることができます。来年はふるってご参加を！

ということで、カンテラに明かりを灯しましょう。

A群

思いっきりアベノミクスを踏みつける	笹田隆志
どんぶりの底に見つけた秋の切れ端	土田雅子
街コンで出会った竜巻注意報	夏草ふぶき
なにがどうどこで狂ったのか余白	まみどり
靴下を被せたような謝り方ネ	向山タエ子
塩漬けの空き家が重くのしかかる	村上あつこ
青空がピカピカになるまで 吠える	吉田吹喜
取り返しつかぬ言葉をおつことす	斎藤泰子

泣き虫にやっと戻れた月の位置

きさらぎ彼句書

初夏の帽子どこまで飛んでいくんだろ

ひとり静

肩ふれて五月の海は修司いろ

吉田州花

古紙縛る波打ち際はこのあたり

熊谷冬鼓

吉田州花さん、寺山修司が好きなんです。歌人で劇作家で演劇実験室「天井桟敷」の主宰だった寺山は、昭和10年12月生まれ。州花さんよりちょっと先輩かな?『われに五月を』という作品集がある寺山は、5月を愛し、5月に亡くなった。もしかしたら、州花さん、修司の恋人だった?

熊谷冬鼓さんは、自宅近くの浜で古新聞を縛ってるのかな?違おうね。「波打ち際は」は、「なみうちぎわ【波打ち際は】波の打ち寄せるところ。なぎさ。みぎわ。なみぎわ。」(広辞苑第七版)なんだけど、私に言わせれば海と陸地の境目のこと。新聞紙は縛られた瞬間「古紙」になるということ、新聞紙と古紙の境目、つまり「波打ち際は」ってことじゃないか、な…。

B群

目が覚めたときは登山靴で泳いでた	安藤なみ
誰のための両手両足なのだろう	守田啓子
世の中を許してやれや股関節	奈良一艘
午睡からさめて迷子の紋白蝶に	吉見恵子
昨日から消えたままです右の眉	米山明日歌
新しい体にルビを振る仕事	須藤しんのすけ

C群

あかんアカンいじけちまってエレキバン	石橋芳山
ギロチンのあとの手足が暴れだす	木村美映
ナナフシの真後ろにいる八月	岩根彰子
間違えたままドッベルゲンガーの子供	月波与生
イシナギは未だに海を見ていない	小野五郎
石橋芳山さん、初めの「あかん」がひらがなで、次の「ア	

カン」がカタカナなのは どうして？ 目から入る句というものを意識しているのかな？ 声に出して読むと、ひらがなの「あかん」もカタカナの「アカン」も同じだものね。それとも、ひらがなの「あかん」とカタカナの「アカン」は違うと考えているのかな？ ひらがなは柔らかい「あかん」で、カタカナは角のある「アカン」とか…。あ、そんなことどうでも良かったかな？ 「エレキバン」は、広辞苑第七版には出ていないけど、ウィキペディアに「ピップエレキバン」があった。「ピップが製造・販売している家庭用磁気治療器の商品名」だ。普通、「エレキバン」としか言わないもんね。私は使ったことがないけど、「装着部位のこり及び血行の改善。肩こり、腰痛などの筋肉硬化症の患部（ツボ）に直接貼る。」「磁気的作用で血行を促進し、老廃物の除去をすることで、こりを改善する効能を謳っている。」らしい。芳山さん、何かやらかしたんでしょう。で、自分がイヤになって、いじけて、肩が凝った、かな？

木村美映さん、これ、怖い…。広辞苑第七版によると「ギ

で、草木の枝によく似る。タケノフシムシ。」と出ている。写真を見ると、細くて長くて麦藁みたいですね。そんな変な虫の「真後ろ」にいるのが何かと思えば「八月」である。「八月」と書かれても私にはさっぱり分からないけれど、もしかしたら1945年8月のことかな？ 8月6日の広島、8月9日の長崎。原子爆弾が投下された月。ということは、「ナナフシ」は日本でことか…。違うかも…。

月波与生さん、「ドッペルゲンガーの子供」ってどうしたの？ 「ドッペルゲンガー」は「ドッペルゲンガー【Doppelgänger ドイツ】(ドッペルゲンゲルとも) ①生き写し。分身。②自身の姿を自分で目にする幻覚現象。(広辞苑第七版)」で、一般には②の意味が使われている。神話・伝説・迷信などで語られ、肉体から靈魂が分離・実体化したものとされて、この二重身の出現は、その人物の「死の前兆」と信じられていたそう。で、間違えて与生さんはドッペルゲンガーの子供になっている。つまり、子供の自分を見ている。間違えたらうが何だろう

ロチン」は、「ギロチン【guillotine】(フランスの医師ギヨタン (J. I. Guillotin 1738～1814) の提唱による) 死刑執行の斬首台。2本の柱の間に斜状の刃を吊り、その下に受刑者をねかせ、刃が落下して頸部を切断するもの。フランス革命時代以来フランスの植民地やドイツなどで用いられたが、フランスでは1981年廃止。断頭台。ギヨチン。」である。「断首台」とも呼ばれ、日本でも導入を検討されたことがあったらしい。「ギロチン」で処刑されると頭部と胴体は離れてしまう。句には、それなのに「手足が暴れだす」と書かれている。川柳は比喩、この句の意図するところは、統率者がいなくなつて、部下達が暴れ出したってことじゃないだろうか。にしても、「ギロチン」なんてびつくりするじゃないですか。

岩根彰子さんは「ナナフシ」なんて虫を知ってるんだ…。「ナナフシ」は、広辞苑第七版に「ななふし【七節・竹節虫】ナナフシ目の昆虫の総称。中胸が長く、翅を欠くなど特異な形態のものが多く。最も普通に見られる一種のナナフシは、体も脚も細長く、全身茶色または緑色

が「ドッペルゲンガー」は「ドッペルゲンガー」かの、アメリカ大統領リンカーンも見たことがあるらしいが、さてさて、与生さんの場合はどうなるか。ジャジャーン！ 小野五郎さん、オオヨが好きですか？ 「オオヨ」は津軽弁。広辞苑第七版には「いしなぎ【石投】イシナギ科の海産の硬骨魚オオチイシナギ・コクチイシナギの総称。オオチイシナギは全長2メートルに達する大形魚。北海道から南日本の深海に分布。夏が旬(しゅん)で美味だが、成魚の肝臓を食べると中毒をおこすことがある。炭焼鯛。〈「季」夏〉と出ている。竜飛岬あたりでたくさん獲れたと随分昔に聞いたことがある。ほぼ人間と同じ大きさの魚で、今はほとんどお目にかかれない。幻とも言える高級魚。その、海に棲んでいるはずの「イシナギ」を、五郎さんは「未だに海を見ていない」と書いている。普通に考えるとそんなことはないはずだが、案外そんなものかもしれない。私だって、この社会に住んでいるけれど周りはずっとも見えていない。そんなところかな…。

深艘心理

生卵食う要介護2の父と

月波与生

(おかしようき6月号より)

或春の日暮です。

唐の都洛陽の西の門の下にぼんやり空を仰いでいる、一人の若者がありました。

くから始まる、ご存知芥川龍之介の名作「杜子春」。この杜子春の物語は「思いやりにあふれた人生こそが本当の幸せ」と説いた寓話。一言も発してはならない仙人試験中、何事があってもじっと我慢をしたのだが、最後に両親が傷めつけられる場面での杜子春が思わず発した言葉が「おっ母さん」。

しかし、掲句では母ではなく父を見ているのだ。それも要介護2の…となればこの句は単なる親子の情愛の類の句ではない。要介護は1〜5までの段階があり要介護2とは、身の

回りや歩行、食事の世話などに見守りや手助けを必要としたり、混乱や理解低下が見られることがある状態。なのだというから介護としてはやや軽めの程度と察する。が、この句のキーポイントは恐らく「生卵」と「父」。同じ親でも息子にとっての父という存在は母とは全く違うのだ。母は全てを包んでくれるオルマイテイな存在だが、父はどうしても超えなければならぬ壁としてのみ存在する。

生卵は人間社会での無常や愛憎の比喩と捉えれば、作者はいま超えるためにあつた壁への労いと共に、自身もまたより高い壁となるために現実社会へ向かって、おそらく武装を始めている、のではないだろうか。

おかしようき川柳社会員雑詠集

無人駅

★無人駅7月間賞

攫われて何処かへ行きたい花吹雪

高橋 星湖

吉見恵子【よしみけいこ・青森県青森市】

午睡からさめて迷子の紋白蝶に
二股の道のどこかで雨を選ぶ
山椒の実ピリリともう六月は
バラ色の雲へくもへとペダル踏む
臆病な羽にアイロン 夏来る

先月号の
お気に入り

米山明日歌【よねやますか・静岡県長泉町】

室温を二度下げてから言いだした
無添加な夜に告白してしまふ
売りに出す水分量のあるうちに
由来はどうあれ 腰掛けてみる橋
昨日から消えたままです右の眉

先月号の
お気に入り

いちじるしく落ちていく時計の針 鳴海賢治
いちじるしく落ちていく。時計の針。なんだか不思議な
世界に落ちていく私がいま。

岩根彰子【いわねあきこ・京都府京都市】

心字池見込み違いの男を掴む
棺桶に入れてねセシールのカタログ
含み綿ペツと吐き出す額紫陽花
若いつてヤバイ銀杏翡翠色
ナナフシの真後ろにいる八月

先月号の
お気に入り

用心が変な角度に刺してある 熊谷冬鼓
用心に角度があり、刺してあるのですね。お知らせあり
がとう。

小野五郎【おのごろう・青森県青森市】

夕闇が死んでいないかエルドラド
イシナギは未だに海を見ていない
心臓つるつる カンタータが終わる
サマンサの竹箒七百五十円
バカボンのパパ旅人に戻れない

先月号の
お気に入り

安藤なみ【あんどなみ・愛知県瀬戸市】

自傷する波打ち際のタンバリン
遮光器を貸してくれない土偶たち
おしくらまんじゅうしようクーラーを強にして
予報士の記憶にはないプラの雨
目が覚めたときは登山靴で泳いでた

先月号の
お気に入り

ありがとうってさよならだった 一帆
パツと塩まいて、手をパンパンとはたいて、おしまい。

石橋芳山【いしばしほうざん・島根県松江市】

三人称の狡さ他人のせいにして
リスクヘッジでしてパンは焦げている
フマキラーひと吹き満月が落ちる
あかんアカンいじけちまってエレキバン
ホットtentトットだからお尻と言っている

先月号の
お気に入り

きさらぎ彼句吾【きさらぎあくあ・青森県弘前市】

母さんの視野で眠った頃がファン
心撫でられて万縁込み上げる
気怠げに刻をこぼして元の砂
泣き虫にやつと戻れた月の位置
血の気の多いトゲが抜けてもまだ無明

先月号の
お気に入り

月の輪へ酸化してきた身を投げる 奈良一艘
嫌になる程枯れ果てた身を受け止めてくれるのが月の輪
だなんて！良いなあ

木村美映【きむらびえい・青森県青森市】

ギロチンのあとの手足が暴れだす
きつぱりとト書きの消えた世界地図
七弁の百合を異形と忌むべきか
ホンモノの喜劇役者は笑わない
夏だからヒップホップの貌でいく

先月号の
お気に入り

月光を逃れてルビをはずし合う きさらぎ彼句吾
読めなかったら読めないままに。辞書なんて所詮言い訳
です。

熊谷冬鼓

〔くまがいとうこ・青森県青森市〕

公園の鳩けちらして蹴散らして
古紙縛る波打ち際はこのあたり
雨三日伸ばしつづける曇み皺
きつとから多分変わるマヨネーズ
臭わない葉ネギどうやら電池切れ

先月号のお気に入り

家が正しいか巢が正しいか・・・だ 奈良一艘
家族がいないと巣とは言えないんだろうなく

斎藤泰子

〔さいとうたいこ・秋田県大館市〕

ぬるま湯の中でこのまま消えようか
月からの信号でしよか耳鳴りは
ハイありました泥舟に乗ったこと
近づきすぎたザリザリ荒れた音がする
取り返しかぬ言葉をおつことす

先月号のお気に入り

一輪を咲かす一粒の雨でいる 坂本清乃
土砂降りの雨しか思えない自分かはずかしい・・・

城後朱美

〔じょうごあけみ・福岡県八女市〕

空晴れてやる気なくした洗濯機
代わらないことがいいとは限らない
二年目になると言いたいことを言う
給食の不平不満が加速する
自分勝手だな無理矢理誘わない

先月号のお気に入り

残金切れ次第退会いたします 松木秀
あれれ 退会ですか？気は変わりませんか？

須藤しんのすけ

〔すとうしんのすけ・青森県弘前市〕

新しい体にルビを振る仕事
花子より泥棒ネコと呼ばれたや
遠距離の手紙一日二度届く
ピノキオの飢えた目鼻に塗る黄色
蠱惑する彼女の肩の彼のシャツ

先月号のお気に入り

花シールべたべた貼ったから春だ 高橋星湖
その通り。次ほどのシールを貼るのか楽しみですよ。

笹田隆志

〔ささだたかし・青森県青森市〕

癌病棟の廊下で待つ貸本屋
旅の終わりはモンジョダロの沐浴で
思いつきアベノミクスを踏みつける
信長の蠶切つて森を見る
Tシャツを脱いでみようか父の日は

先月号のお気に入り

鴛清五郎

〔しませいごろう・滋賀県米原市〕

関門を挟み首と縦旨くやり
橋渡る今じや名門獣医大
高速の数珠を見ながら草を刈る
山伊吹槍に穂高と富士望み
旨い水梅花藻咲いた暑い夏

先月号のお気に入り

高橋星湖

〔たかはしせいこ・青森県むつ市〕

クタクタと旅に疲れた旅靴
走り出す父のD51昼の夢
牡丹崩れ肺活量が増加する
髪サラサラ重たいものを脱ぎすてて
雨あがる意固地を解除かたつむり

先月号のお気に入り

瀧尻善英

〔たきじりよしひで・青森県八戸市〕

常識を越えショーケン逝く平成
3回目なのに全く糠に釘
五百羅漢かぞえ一体釈迦のもと
妄想が溢れて開く袋とじ
人間の器 読書の質と量

先月号のお気に入り

そして満開 希林の死裕也の死 守田啓子
「見事な女性でした」とコメントした裕也さんが半年後に、
あとを追って…。まさにロッケンロール!!!

田久保亜蘭【たくぼあらん・秋田県五城目町】

簡単に花王石鹸手に入れた
点在するだけ精子は足りません
戦線はパン一枚を取り合つて
一目盛り違うだけでもミス秋田
ぬけぬけと出遅れてゆく鳩時計

先月号の
お気に入り

月波与生【つきなみよじょう・宮城県仙台市】

間違えたままドッペルゲンガーの子供
こいびとのフルート妻と聴いている
夜と霧終え無指紋になる男
ソドムから戻ればまたも父と母（自称）
無言劇終わる臓器提供拒否

先月号の
お気に入り

風船を追つてかあさん出て行った 三上玉夫
玉夫さんも風船追つて出ていかれた、合掌

土田雅子【ちだまさこ・青森県青森市】

平成の大きな穴を埋めている
エニシダの木陰に秘密基地を置く
さつかりん世代だもの毒は浴びている
ボタン穴探し始めているつがい
どんぶりの底に見つけた秋の切れ端

先月号の
お気に入り

全てオフにして濃密な無言 きさらぎ彼句吾
濃密な無言にやられました！

夏草ふぶぎ【なつくさぶぶぎ・青森県青森市】

玄関を開けてたどり着く砂漠
精米機が海をどんどん白くする
街コンで出会った竜巻注意報
公園の湿った砂場が焦げてきた
湿気つてるポテトチップスから朝日

先月号の
お気に入り

買ひ物ののが少しだけ伸びただけ ひらく
のが少しでも伸びたらいいなと思うこの頃。

奈良一艘【ならいつそう・青森県弘前市】

ヨーグルトの賞味期限のクソツタレ！
しっとり系の半炒飯と令和が「むむむ」
告白します！ムカデの足を踏みました
世の中を許してやれや股関節
オペレーションB↓全身を脱毛

先月号の
お気に入り

夢の味するガムふくらまないんだ 松谷早苗
こんな可愛い川柳を見たのは久しぶり。原点を思い出し
た気がしますな。

鳴海賢治【なるみけんじ・青森県つがる市】

何事も均等ハヤシライスでも
調整している 楽しんでる
焼いてみた煮てみた干してみたキミを
氣象庁発表 赤ですか青ですか
真つ新なハンカチ畳んで帰ろうか

先月号の
お気に入り

何もないとこで少し立っている むさし
何事もシンプルが一番です。威圧的なところが何んにも
ないところが良いと感じました。

ひとり静【ひとりしずか・奈良県大和郡山市】

美しいものしか映さない田んぼ
初夏の帽子どこまで飛んでいくんだろ
ベクトルがずれてる水を足しましょう
返し縫いして止めておく昨日今日
青空に飛行機雲の傷ひとつ

先月号の
お気に入り

眼科には似合わぬ鳥のイヤリング 月波与生
耳鼻科にはやはり虫でしょうか。

ひらく【ひらく・青森県蓬田村】

簡単に心に響く芋食べた
金持の野望でできたお饅頭
こんな日は金柑頭とお茶をする
プロならば発言せねばならぬこと
消しゴムでピエロの涙消してから

先月号の
お気に入り

まきこ【まきこ・青森県青森市】

回転ドア抜けると消えていたルール
平成令和異物混入まだ続く
最終章に挟んでおいたお約束
枯れつつじ夢をとつとつ話し出す
立ち位置で赤い風船持たされる

先月号の
お気に入り
りゅうぐうの亀に落度はないのです
了解。責めることはしません。
鳴海賢治

まみどり【まみどり・青森県黒石市】

ドラレコのせいで会話が減っていく
肯定も否定もされぬから減入る
眠りましょ自己分析をするように
目覚めても変わっていないだろう鼻
なにごうどこで狂ったか余白

先月号の
お気に入り
芯のない噂は捨てる下水道 辻井洋子
どこかに引っかかるないことを願ってます

守田啓子【もりたけいこ・青森県青森市】

何度目の雨雲の接近だろう
どしゃぶりの真つ只中の委任状
誰のための両手両足のなるだろう
すんなりと墮ちる墮としてほしい 沼
ならどうするならどうするって生きてゆく

先月号の
お気に入り
二人の間にまだまだ雪は降るだろう 土田雅子
降るだけ降ったら止みます解けます、雪だもの。ん？二
人って？

吉田州花【よしだしゅうか・青森県青森市】

夜のペン熟れてこぼれてすぐ凍る
たつた今ちやぶ台返しルビはない
こんな夜はトッカータとフーガへ逃げる
スタバなら行ける夜でもひとりでも
肩ふれて五月の海は修司いる

先月号の
お気に入り
裸木に吊るす唐辛子な日常 土田雅子
・・・があるうちはまだ幸せ だと思っ

向山夕エ子【むこうやまたえこ・青森県青森市】

連れ合いを斜めから観るラクになる
靴下を被せたような謝り方ネ
「それから」の先はあの世で語り合おう
夫に欲しいなめくじのよな湿めり具合
後期高齢者反抗期へと突入する

先月号の
お気に入り
毒に毒とことん吐いて二人居る まきこ
まきこさんて千里眼かも・・・私、覗かれているよう
な気がする・・・あゝ恥ずかしい。

村上あつこ【むらかみあつこ・青森県青森市】

塩漬けの空き家が重くのしかかる
知らぬ間に締め付けてくる皮下脂肪
古希過ぎて故障が続くネジを巻く
風の渋滞急に逆風そして嵐
昨日の棘が抜けないずっと雨模様

先月号の
お気に入り
しあわせをあしたへとつておくラップ 齋藤泰子
しあわせが明日も続きますように！本当にラップで包ん
でおけたら良いのにな

吉田吹喜【よしだふぶき・青森県弘前市】

雨ですから従うほかありません
つつましく傘を開いて身を守る
アホ面になるのも仕方がないね バラ
どんどんはがれ続けて 生き続けて
青空がピカピカになるまで 吠える

先月号の
お気に入り
「ほ」ってそりゃあ「ほ」でしょう舟が沖へ出る 滋野さち
「ほ」の船出感が いいね です

むさし【むさし・青森県蓬田村】

裏庭のあの日の影を掘り起こす
老人の空の無数の爪の痕
実例がフクシマにある、忘れたか
ノートルダム大聖堂の絆創膏
あの世の縁に脱輪してる車椅子

川柳ステーション 2019



今年は皆さんも慣れた感があった川柳ヨロシウム。



今年はオリジナル小枝を配りました



決して反社会的勢力のイベントではありません(笑)



7月6日(土) 13:00 ~ ラ・プラス青い森

▼出席者(32名:受付順)

むさし・田久保亜蘭・夏草ふぶき・守田啓子・葉閑女・まきこ・木村美映・
Sin・熊谷冬鼓・小野五郎・岩崎雪洲・岩崎真里子・きさらぎ彼句吾・
須藤しんのすけ・一帆・渡邊こあき・田沢恒坊・吉田州花・白川莫・三浦
蒼鬼・ひとは・野沢省悟・辻井洋子・奈良一艘・村上あつこ・奥崎倭子・
笹田かなえ・北野岸柳・柳谷たかお・高瀬霜石・佐藤雅秀・笹田隆志

▼ご芳志御礼(敬称略)

青森県川柳社・弘前川柳社・金木川柳の会・高瀬霜石



三次会は屋外のビアガーデン。生ビールうまし!!

席題『雨』

青森県黒石市

岩崎眞里子選

【佳作】

エンジェルが雨合羽着て逢いに来た
土砂降りに遇うと恋しくなる故郷
走り梅雨共に炎になる傘になる
昼顔に日陰にいつも雨の匂い
葉のしづく だれかが嘘をついている
写楽が雨ごいしてる高山寺
それからはないものとして傘閉じる
雨の日は雨に打たれている仔猫
雨宿りさせて下さい少しだけ
垂直に堕ちてやるぞと雨が言う
遺言の通りに捨てる母の傘

田久保亜蘭
高瀬霜石
奥崎倭子
笹田かなえ
守田啓子
笹田隆志
渡邊こあき
田沢恒坊
村上あつこ
田久保亜蘭
須藤しんのすけ

九合目からひらがなの雨になる
言の葉の葉露に映り込む殺意
背中からあめかんむりが離れない
消えちやった銀河鉄道天気雨
雨は止んだ私の虹は家出中
他愛ない一滴にずぶ濡れになる
長雨を一本締めにしてしまう
アジサイが白いざわつく影占い
墓守のうなじに氷雨にわか雨

三浦蒼鬼
S i n
木村美映
野沢省悟
まきこ
佐藤雅秀
辻井洋子
岩崎雪洲
吉田州花

【秀逸】

雨垂れが言うマイペース・マイペース
傘ささず元踊り子がやってくる
雨つぶに浄化されてるチューリップ

高瀬霜石
小野五郎
一 帆

【特選】

コンビニでどしゃ降り買って帰ります

ひ と は

席題『雨』

秋田県五城目町

田久保亜蘭選

【佳作】

犬掻きで闇営業をしています
遺言の通りに捨てる母の傘
いっぽんの鼻毛を抜いた雨上り
しとやかに四字熟語の雨降らす
ニルギリの雨の向こうのさようなら
昼顔の日陰にいつも雨の匂い
走り梅雨共に炎になる傘になる
それからはないものとして傘閉じる
雨つぶに浄化されてるチューリップ
葉のしづく だれかが嘘をついている
遣らずの雨になるくちびる薔薇にして

三浦蒼鬼
須藤しんのすけ
野沢省悟
夏草ふぶき
笹田かなえ
笹田かなえ
奥崎倭子
渡邊こあき
一 帆
守田啓子
きさらぎ彼句吾

こぼれ種芽吹く雨は二短調
雨の日は雨に打たれている仔猫
列島ザクリ有刺鉄線のなぐり雨
紫陽花の横にヒコキ雲を刺す
よく降った雨と女と傘と猫
雨は止んだ私の虹は家出中
降水確率は30% ギブミーチョコレート
雨垂れが言うマイペース・マイペース
スツカラカンになるまで聴いた花時雨

吉田州花
田沢恒坊
岩崎雪洲
須藤しんのすけ
一 帆
まきこ
奈良一艘
高瀬霜石
奈良一艘

【秀逸】

補正下着が縮んでしまうにわか雨
ぶれまいとするから雨になる水になる
ゴビ砂漠で商売をする雨量計

田沢恒坊
熊谷冬鼓
笹田隆志

【特選】

九合目からひらがなの雨になる

三浦蒼鬼

席題『泳ぐ』

青森県弘前市

奈良一艘選

【佳作】

肥えたつて？こいつはライフジャケットさ
泳いだり沈んだりして金ダワシ
そのうちに立ち泳ぎするモアイ像
夜店にて地味な金魚になりにつけり
噂など素通りさせて泳ぐバラ
雲海を泳ぐ令和が始まった
スカジャンの掬う金魚に妻子あり
回転ドアの中で泳いでいる 渦
老人の海はプカプカ恋をする
老化中ですがまだまだ遊泳中
息継ぎのたびに寺山を吸っている

木村美映

田久保亜蘭

田沢恒坊

岩崎雪洲

まきこ

渡邊こあき

須藤しんのすけ

小野五郎

須藤しんのすけ

高瀬霜石

S i n

泳法は問わない君の向こう岸

おちんちんだけが泳いでいる産湯

花いかだ泳ぐ記憶のままつづく

したたかな奴だ犬かきしか見せない

雑踏を泳ぎ疲れてから海に

ゆくりなき音色に溺れゆく街よ

三角波立てる「ん」を泳がせて

死をひしゃげて泳がされてる

潮騒が漏れる待ちぼうけの水掻き

泳ぐ

葉 閑女

きさらぎ彼句吾

守田啓子

きさらぎ彼句吾

熊谷冬鼓

辻井洋子

辻井洋子

岩崎眞里子

岩崎眞里子

渡邊こあき

【特選】

半夏生波のページをめくる指

席題『泳ぐ』

青森県弘前市

きさらぎ彼句吾選

【佳作】

花いかだ泳ぐ記憶のままつづく
さからわず生きた末期も花筏
ゆくりなき音色に溺れゆく街よ
五線譜に泳がせている春の詩
噂など素通りさせて泳ぐバラ
そのうちに立ち泳ぎするモアイ像
親殺し子殺し立泳ぎがつづく
スイスイスーダラ死ぬまで植木等だぜい
水が恐くて背泳ぎばかりしてしまう
泳法は問わない君の向こう岸
回転ドアの中で泳いでいる 渦

岩崎眞里子

吉田州花

葉 閑女

木村美映

まきこ

田沢恒坊

野沢省悟

高瀬霜石

夏草ふぶき

岩崎雪洲

小野五郎

バックストローク全自動洗濯機

捕まっていたまるか溺れてたまるか

腹筋を鍛えて泳ぎきる夜空

穢土浄土泳ぎ疲れて喪が明ける

鍛えねば スギナの中を泳ぐなり

老人の海はプカプカ恋をする

酸欠の海ゆつくりとかたつむり

案件その一、大統領のバタフライ

立ち泳ぎしてます つるりところてん

【秀逸】

息継ぎのたびに寺山を吸っている

老化中ですがまだまだ遊泳中

雑踏を泳ぎ疲れてから海に

【特選】

夏椿 句跨がりという泳ぎ方

小野五郎

熊谷冬鼓

葉 閑女

ひとは

辻井洋子

須藤しんのすけ

岩崎眞里子

奈良一艘

まきこ

S i n

高瀬霜石

三浦蒼鬼

守田啓子

岩崎雪洲

野沢省悟

岩崎眞里子

佐藤雅秀

三浦蒼鬼

葉 閑女

きさらぎ彼句吾

守田啓子

きさらぎ彼句吾

熊谷冬鼓

辻井洋子

辻井洋子

岩崎眞里子

岩崎眞里子

渡邊こあき

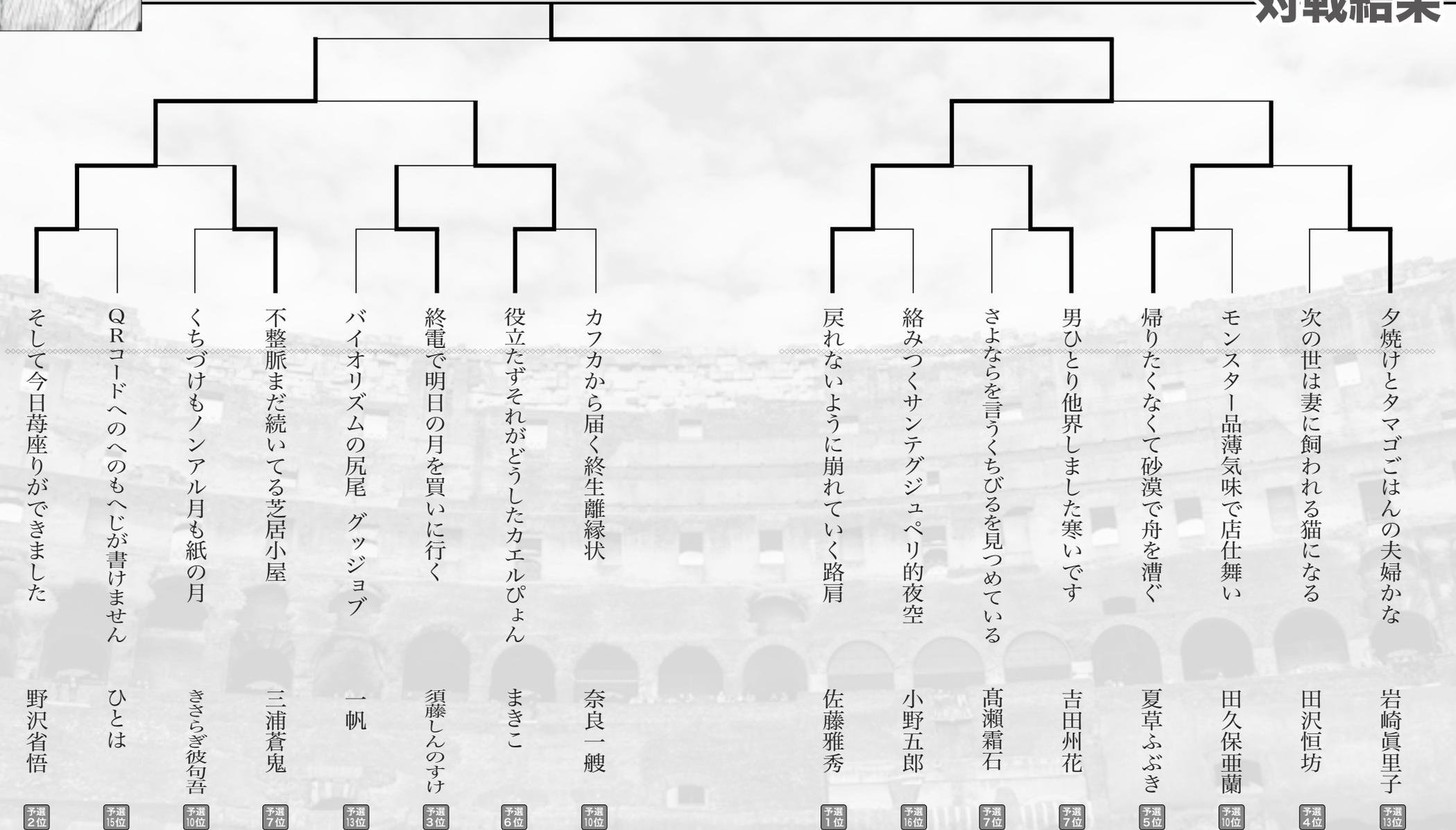
川柳コロシアム

対戦結果



【優勝】

戻れないように崩れていく路肩
佐藤 雅秀



た。

進行役Sinさんから「指名された方は作品への応援スピーチ、対戦句に対する異論、それに対する反論もしていただきますが、時間はそれぞれ40秒以内でお願いします」と説明があった。参加者は疑問符付きの瞳を耀かせ、意味不明の微笑みを浮かべている。

▽先ず予選。

張り出された「一句×一句」が参加者全員の拍手で、微妙な場合は拳手によって決定され、作品は8句に絞り込まれた。

いよいよバトルの開始である。司会者が対戦句を読みあげて応援スピーチの担当者名を告げると、「ええーっ」という声があがった。するとすかさず「その句を選んでいなくてもかまいませんので、名前を呼ばれた方は応援の

スピーチをして下さい」という。

▽第1回戦：

①『そして今日苺座りができました』と、②『不整脈まだ続いている芝居小屋』の対戦。「昨日までは出来なかった可愛い苺座りが今日は出来たという中にドラマがある」という①に対して、②は「やつかいな日常生活を描いている句で、芝居ではなく芝居小屋がいい」という。会場は①「そして今日」の句を選んだ。

▽第2回戦

③『終電で明日の月を買いに行く』と、④『役立たずそれがどうしたカエルびよん』。③は「とても辛い事があつた一日だったが、明日は…という祈りを詠っている」と言い、「役立たずとは私のことだが、人が何と言おうと私

川柳コロシウム 観戦記

昨年から始まった贅否渦巻くこの企画は、何故かちよい悪の吸引力で川柳への興味関心を掻き立てる。佳句に触れたいとか良い句を成したいとかだけではなく、私達が裡に秘めている何かを呼び覚まそうとしている気もする。つまり、まんまと乗せられている。第二回目を迎え、どんな風に進化しているか楽しみでもあった。

その感想を…という依頼だったが、実際の様子が分からなければ感想も伝わらないだろうと考え、参加しない人にも分かるようメモを頼りに進行風景を記しながら書いてみようと思いついた。

受付で手渡された句箋入りの封筒に、コロシウム参加25作品一覧と投票用紙が入っていた。コロシウム開始前、一人2句を選んだ集計結果の上位16句を張り出したボードが壇上に置かれ

は私なりに生きていくのだ」と強気のd。会場はd「役立たず」の句を選んだ。

▽第3回戦

⑤『戻れないように崩れていく路肩』と、⑥『男ひとり他界しました寒いです』。⑥は「崩れていく路肩…と退路を断っている表現に強烈な意思を感じた」と言えば、⑤は「他界したことがないのでよく分からないが、遣されるとたぶん寒いんじゃないかなあと思う」と応じる。会場は⑥「戻れないように」の句を選んだ。

▽第4回戦

⑦『帰りたくなくて砂漠で舟を漕ぐ』と、⑧『次の世は妻に飼われる猫になる』。⑧は「砂漠ではあるが其処はオアシスでもあり、帰りたくないという気持ちから懸命に舟を漕いでいる」と熱く語り、⑦は「妻に可愛がられている猫をいいなあ…と眺めている素直さ

がいい」と言う。会場は⑧「帰りたくなくて」の句を選んだ。

ここ迄の対戦でベスト4が決定した。

▽第5回戦・準決勝

⑨『そして今日苺座りができました』と、⑩『役立たずそれがどうしたカエルびよん』。「一読して苺座りのイメージがスーッと心に入ってきます」と言う⑨に、⑩は「役立たずという現状と動作びよん、それがどうしたという心情を加えて…」と時間切れになつてしまった。会場は⑨「そして今日」の句を選んだ。

▽第6回戦・準決勝

⑪『戻れないように崩れていく路肩』と、⑫『帰りたくなくて砂漠で舟を漕ぐ』。「退路を断つ潔さ、とても男っぽ

と、理屈っぽくなく書いています」と軽快な言い方の⑨に対し、⑩は「帰りたくなくて」という心情はみんなにある。そこは砂漠ではあるが、それはオアシスのように見える砂漠でもあり…」と苦しそう。会場は⑨「戻れないように」の句を選んだ。

▽第7回戦・決勝戦

⑬『そして今日苺座りができました』と、⑭『戻れないように崩れていく路肩』の最終決戦。「そして今日…という表現には余韻がある。苺座りからは初めて出来た喜びが感じられる。とても素直な良い句です」と歯切れの良い⑬に対して、⑭は「路肩は崩れてはいけません。それを戻らないために崩したのです。とても心に沁みている表現であり、おちゃらけていないおかげようらしい句です」と熱く語つた。両者ヒートアップして参加者を惹

川柳コロシウム 観戦記

きつけていた。そして選ばれたのは『戻れないように崩れていく路肩』だった。熱い決戦を制した句の作者は佐藤雅秀さん。感想を問われると「実に様々な角度から、皆さまに完璧な応援をしていただき、自信になりました。ありがとうございます」と言葉すくなく語った。

一対一のバトルとあつたように、それぞれの対戦には反論もあつた。作品の特長や独自性をもって鑑賞することが多い川柳だが、それは作品をより広く深くすることでもあると思つている。しかしその場合、取り上げられる作品は限られてくる。その他の作品達もまた、感想を聞きたいし：言いたいし：みんな知りたいのである。それが、問答無用で言わねばならない場に立た

された時、実は最も素に近いその人が現れるのではないかとも思う。

今回とても清々しく印象に残つたのは、討論中に「素晴らしい句だと思いませんか！」の反論に「僕もそう思います」と応じたり、対戦句の問題点を指摘した後でつい「すみません：」と謝つたりした場面だった。作品や作者をけなすようなことはなく、川柳人として共感や共鳴を求める雰囲気会場を満たしていたように感じた。川柳入門の頃の研究会を思い出し、応援スピーチや反論もまた作品を理解する手立てとして有効なのかも知れないと思つた。

楽しかったが、振り返つてみるとモヤモヤしたものが二つある。

一つは『戻れないように崩れていく

路肩』の作品について。実は私も選んだ句であるが、退路を断つよう意思を持つて路肩を崩したのではなく、もう戻れない道なのだよ：と論ずよう路肩が崩れていくと解して老いという必然の道を思い浮かべた。ひよつとしたら私のように感じた人もいたのではないだろうか。

二つ目は、次点句『そして今日母座りができました』に関して。作品の命とも思える素敵な表現「母座り」が、最後まで解き明かさなかったこと。それぞれ思い浮かべるイメージに違いがありそうなのに、そのまま終了してしまつた。せめて作者からコメントでも聞くことが出来たなら：と思つた。

川柳コロシウム 傾向と対策

森山 文樹

川柳コロシウム2019をYouTubeで拝聴した。昨年現地で体感した熱い記憶が蘇り、大変興奮した。YouTubeでの公開は今後も継続してお願いしたい。

川柳コロシウムでは他人の句を褒める又はダメ出しして、その評も含めて勝敗が決まる。本稿では今回のみなさまの評の傾向から川柳コロシウムの戦術について考えてみる。

まず目立ったのが具象について語る手法である。決勝に残つた「苺座り」「路肩」を始め「砂漠」「猫」などだ。具象は「奇抜なだけ」「見つけがいい」「み

んな使つてる」「親しみがある」など攻めにも守りにも使いやすい。

次にいわゆる「常套句」を指摘する手法も多かった。「そして今日」「終電で」「帰りたくなくて」などが該当するだろうか。こちらも「親しみがある」と言えるのかもしれないが、具象よりはマイナスポイントが大きそうだ。

今回多く見られたこれら2つが基本的戦術となりそうであるが、これだけではまさに「常套」で、聴く人へ訴えるものがない。勝ち上がった方の評は基本的戦術をベースとしながら「これ

が私の意見です」と伝わるものがあつた。親しみの中の独自の視点が勝ち上がりのポイントとなりそうだ。

川柳コロシウムは評に主眼を置いた企画であるが、親しみの中に独自の視点があるか、はまさに作句において重要な点である。川柳コロシウムが参加者の、YouTubeを視聴の方々の作句力向上に寄与することは疑いようがない。またいつか参加できることを願っている。

2019年7月6日、おかげようき川柳社主催の川柳ステーションに参加するため、青森市「ラ・プラス青い森」に県内柳人30数名が集まった。

川柳バトルを行う川柳ロシアム。川柳の世界に新しい地平を拓こう、最先端の川柳表現にチャレンジしようという意気込みあふれる企画だ。

まず、あらかじめの提出された24句に対して、参加者全員が一次選で投票する。「さよならを言うくちびるを見つめている」という句が目についた。これは淡い恋心を謳ったもの。もつれた未の男女の別れではない。しかし、残念なのは下6。「見つめてる」にすれば解決するが、「見つめてる」でなければ余韻がない。随分迷ったが、これは一行詩の範疇ということにし、私の投票からは外した。結局、この句は一

次選に残らなかった。高点で投票し、選に残して、他の人の意見も参考にすべきだったと反省している。

一次選で残った16句を2句ずつにして、それぞれの句の解説者をランダムに決め、推薦句を褒め、対戦する句をけなすダイベート方式で議論し、その結果を全員の拍手か投票で勝句を決めるやり方で進んでいく。

ここで疑問が生じた。解説者をランダムに決めるため、自分がいいと思つた句をけなし、いいと思わなかつた句をほめなければならぬ場面が生ずる。これでは、議論力を高めるには有効かも知れないが、川柳そのものや解説者に対して、失礼な気もする。ただし、夫婦喧嘩のときは、こうやって相手を罵倒し、やつつけているのかという参考にはなつた。

最終的に対決した2句が一次選のときの1位、2位だつたそうだ。全員投票の合評吟方式でも同じ結果とすまつたのかと淋しい気もした。

全体の傾向からすれば、「さわらないでね」など会話調のもの、「母座り」などの造語もの、「カエルびよん」などのオノマトペ、「砂漠で舟を漕ぐ」のような取り合わせ、「サンテグジュペリ、カフカ」など異色作家の名前を入れたものなど、全体として違和感のある言葉、強烈なイメージのある言葉を置いて、新しい表現を指そうとする意欲が感じられた。

対戦方式は面白いので、推薦者の選び方、解説の方法を工夫すれば、川柳理解を深められるイベントになる。これからが楽しみだ。

十和田たてがみ川柳会6月句会

【時】平成31年6月15日(土)

【所】十和田労働福祉会館

【出席者】漆館ミノリ・久保あざみ・木村奈生美・斉藤蛙井・佐藤まさあき・瀧尻善英・村上昌子・高田幸柳

【投句者】磯島雅男・城後朱美・福田芳詔

■席題『通販』

【平抜き】

通販に頼りいつしか出不精に
たまにだが夫通販できたらな
通販を一度利用でメール攻め
通販は必要ないと鬼あざみ
お取り寄せ優しい声で押してくる
通販もいいが矢張り店頭買
通販が断捨離決意誘惑し
通販を甘く見過ぎた落とし穴

【秀逸】

一寸待てあと30分に躊躇する

齊藤 蛙井 選

高田 幸柳
久保あざみ
村上 昌子
久保あざみ
村上 昌子
佐藤まさあき
高田 幸柳
木村奈生美
佐藤まさあき

騙されて知る通販の裏の顔

【特選】

通販のカタログにあるユートピア

■席題『通販』

【平抜き】

たまにだが夫通販できたらな
通販に頼りいつしか出不精に
通販で若く健康長生きし
便利な通販クリックポンと押す
通販はテレビカタログ見てるだけ
肩たたき大きな箱に一個だけ
通販を一度利用しメール攻め
通販を甘く見過ぎた落とし穴

【秀逸】

お取り寄せ優しい声で押してくる

瀧尻 善英 選

木村奈生美
瀧尻 善英
久保あざみ
高田 幸柳
漆館ミノリ
齊藤 蛙井
久保あざみ
村上 昌子
木村奈生美
高田 幸柳
木村奈生美
村上 昌子

■宿題 『鶴』

高田 幸柳 選

■宿題 『壺』

木村奈生美 選

【平抜き】

鶴亀と言わぬがなりたいたい長寿俣

鶴のよう突然に恋舞い降りる

飛べよ飛べヒロシマからの鶴よ飛べ

鶴までも絶滅危惧種にしてしま

千羽鶴願ひ新たな原爆忌

空を舞う夢を抱いてる千羽鶴

日本中鶴首して待つ拉致帰国

潔い風雪に立つ鶴の声

丹頂のような気取った恋だった

人間に会いたくなつて群れる鶴

折り鶴の切手を貼れば翔ぶだろう

逆風を乗り越えて飛ぶ鶴の意地

【秀逸】

ヒロシマの空に飛べない鶴がいる

母さんの介護は鶴の恩返し

【特選】

掛け軸の鶴が飛び立つ日の祝い

佐藤まさあき

齊藤 蛙井

村上 昌子

久保あざみ

佐藤まさあき

木村奈生美

福田 芳詔

村上 昌子

齊藤 蛙井

木村奈生美

瀧尻 善英

木村奈生美

瀧尻 善英

城後 朱美

瀧尻 善英

【平抜き】

心には痛みの壺が二つ三つ

壺にバラ有田焼とはつゆ知らず

床下の壺に隠しておいた夢

床の間に飾れば光り出す茶壺

壺ふつて依存の罪は知らんぷり

飾り壺花一輪が欲しくなり

食卓に笑いの壺を大切に

隠し事ばかりの壺に入るひび

許されぬ恋を悔やんだ涙壺

沖繩のいたみのツボを押さぬ安倍

プーチンのつぼにまんまとはまる安倍

床の間に掘り出し市の壺鎮座

【秀逸】

物置の壺父さんの宝物

滝壺に片恋試練なる令和

味噌壺が故母の秘伝を知っている

久保あざみ

城後 朱美

高田 幸柳

瀧尻 善英

磯島 雅男

瀧尻 善英

久保あざみ

村上 昌子

高田 幸柳

福田 芳詔

福田 芳詔

佐藤まさあき

城後 朱美

磯島 雅男

齊藤 蛙井

■宿題 『佃煮』

互選

①佃煮を待ち焦がれてる苦い酒

①母さんの三倍も生き伽羅路を

①佃煮が主菜の脇をデンと占め

①三世代同居佃煮切らさない

①佃煮に香る故郷の顔と顔

①なげわらし佃煮のような滋味をつけ

①佃煮をのせればお茶漬けハミングす

①おにぎりにジャコの佃煮大当たり

①佃煮の箱までリユース母の知恵

①佃煮のような人生歩みたい

①幸せな佃煮箸が絡み合う

⑤佃煮に小言も混ぜる隠し味

高田 幸柳

村上 昌子

齊藤 蛙井

瀧尻 善英

高田 幸柳

齊藤 蛙井

佐藤まさあき

久保あざみ

瀧尻 善英

久保あざみ

木村奈生美

十和田たてがみ川柳会8月句会

【時】 8月24日(土) 午前10時00分から 【所】 十和田

労働福祉会館 【宿題】(各題三句詠) 『いっしゅつ』高

田幸柳選 / 『トア』 木村奈生美選 【互選】(二句詠)

『透明』当日出席者のみ(句箋の裏に雅号記入) 【席題】

一題(三句詠・共選) / 選者は、瀧尻善英ほか出席者

から一名 【投句先】〒034-0049 十和田市西二十二番

町2-21 十和田労働福祉会館 高田幸柳

『アウガ川柳教室』のお知らせ

【場所】 青森駅前「アウガ」5階

【日時】 毎月2回 第2・4火曜日13時～14時半

【講師】 おかじょうき川柳社 代表 むさし

【受講料】 1回 500円

□ 8/13(火)(休講) □ 8/27(火)「魚」 □ 9/10(火)「九月」

□ 9/24(火)「星」 □ 10/8(火)「応える」 □ 10/22(火)「貌」

●投句先：〒030-1212 青森県東津軽郡蓬田村阿弥陀川字汐干43-3

むさし宛 / TEL.0174-27-2008 / E-mail : hmusashi@r66.7-dj.com

「川柳吟行会 ぼ」

— 参加者募集 —

滋野さち

6月19日、合浦公園で吟行会が開かれた。
桜の時期は、露店もぼんぼりも並んで賑やかな公園だが、今は葉の緑も濃く池には睡蓮が咲いている。昔はピンクの花もあつたが、今はほとんど白花で寂しいけれど清々しい。

茶室として使われることが多いという合浦亭を借りて、和室に向かい合つての句会もまた楽しい。

もう少し早い時期なら、藤や、ツツジが美しいのだが松や桜の古木を見ながら砂浜を行くと、啄木の句碑が海に向かって建っている。

「船に酔いてやさしくなれる妹の目見ゆ津軽の海を思えば」
ロマンチックな歌を詠んだ啄木に心酔した少女期があつた。いかに貧しさや身の不遇を歌つても、実生活では妻子を放つてわがまま勝手な文学青年のままだったと知つたときの落胆と腹立ちを今も忘れない。

青臭きハマナスひとつ持て余し
吉見恵子
年金は鳩の領分トとつまずく
滋野さち
活断層の真上草刈り作業中
熊谷冬鼓
慰霊碑が見つめている夜の庭
小野五郎
東屋から拡散されてゆく悩み
渡邊こあき
天邪鬼ふいに横向く水すまし
福田文音

甲高い孔雀の声に見送られて懇親会もなく帰途についたが、次は桜や藤の満開の時に、また巡り歩きたい静かな公園である。羽を開いた孔雀を見られて、ラッキーと思つたのだがオスしかあのきれいな羽を持たないのがちよつと悔しい。

「川柳吟行会 ぼ」 9月吟行
【吟行日時】 9月25日(第4水曜日) 11:30集合
【吟行場所】 三内丸山遺跡
【句会場所】 吟行後アウガ5階企画ワーク室 14:30
【参加費】 100円

□ 2019.08.10 第29回青森県民文化祭・文芸コンクール募集

【投稿】 投稿作品はすべて自作・未発表であること。二重投稿は固くお断りします。同一作品、酷似作品があつた場合、入選・入賞を辞退していただくことがあります。
【参加料】 無料【締切】 令和元年8月10日(土) 必着【入賞発表】 10月上旬、県内新聞三紙上での発表【表彰式】 令和元年11月10日(日) 於：アラスカ(青森市新町) Tel.017-723-2233【入選作品集】 希望者は84円切手5枚を同封し〒030-0913 青森市東造道2-5-6 文芸コンクール実行委員会 千葉禮子宛 郵送で申し込むこと。【川柳部門題材】 雑詠一人3句(ハガキに限る・裏面は作品のみ)【選者】 内山孤遊・田鎖晴天・岩崎雪洲・佐藤ぶんじ・千島鉄男・田沢恒坊・八木田幸子・むさし・瀧尻善英・成田我楽【賞】 川柳知事賞×1・川柳準賞×3・川柳佳作賞×10【投稿先】 〒038-1214 藤崎町大字常盤字四西田13-31 佐藤雅秀宛 Tel.090-8254-5561

□ 2019.09.23 第1回川柳忌黒石川柳大会

【日時】 令和元年9月23日(祝・月) 受付：午前9時 席題発表：午前10時 投句締切：午前11時【会場】 グリーンパレス松安閣 黒石市乙徳兵衛町34(駅から徒歩5分) 電話0172-52-3850【会費】 4千円(昼食・懇親会費・発表誌)【席題】 (2句詠) 「 」 千島鉄男・まきこ共選【宿題】 (2句詠) 『チェンジ』高瀬霜石・山野茶花子共選『染』むさし・千葉かほる共選『伝』田沢恒坊・船水葉共選『光る』瀧尻善英・沢田百合子共選【特別選】 (折句1句詠) 「 」 野沢省悟・八木田幸子・成田我楽三人選 *選者一部交渉中【呈賞】 宿・席題の合点20位まで及び特別選の第3位まで【主催】 黒石川柳社【連絡・問い合わせ先】 090-7933-6064(三浦蒼鬼)

□ 2019.10.06 第56回五所川原川柳大会

【日時】 令和元年10月6日(日) 午前9時30分受付(席題発表10時30分) 投句締切11時30分【会場】 五所川原市中央公民館1階大ホール【会費】 4000円(昼食・懇親会・発表誌)【宿題】 (2句詠) 『紙一重』北山まみどり・むさし共選『無垢』八木田幸子・千島鉄男共選『使い手』菊池京・岩崎雪洲共選【席題】 (2句詠) 2題『 』大黒谷サチエ・野沢省悟共選『 』渡邊こあき・稲見則彦共選【特別課題】 (1句詠) 『奇遇』守田啓子・佐藤雅秀・濱山哲也・千葉かほる・太田久共選 ※投句拝辞 ◇ 選者は交渉中【賞】 宿・席題合点20位まで・特別課題3位まで【連絡】 0173-34-3698 沢田百合子さんまで【主催】 川柳岩木吟社・五所川原市文化振興会議

おかじょうき川柳社 作品募集案内

□ 2019.08.15 ㄨ FM青森チャレンジ川柳! むさし流!

毎週土曜日お昼12時から放送中! 入選→秀逸→特選と毎週3句を紹介。8月15日締切。9月放送【題】「たっぷり」【投句先】〒030-0812 青森市堤町1丁目7-19 (株) エフエム青森 チャレンジ川柳! むさし流! 係 ※FM青森のホームページからも投句できます。FAX:017-735-1186もOKです。



□ 2019.08.20 おかじょうき会員雑詠集「無人駅」5句(10月号分)

【締切】8月20日必着【掲載】10/10発行号【提出先】〒030-0861 青森市長島4-23-4-102 守田啓子宛 FAX017-723-5696【ネットからの投句】<http://www.okajoki.com/toku/mujineki.html>



□ 2019.09.07 おかじょうき川柳社本社9月句会

【時】9月7日(土)午後1時~【所】アウガ5階小会議室【宿題】(各題3句詠)『絵』/『サイズ』/『自由詠』選者は当日決定【席題】1題3句詠・2人共選【研究吟】自由詠1句【投句締切】句会前日必着【投句先】〒030-0861 青森市長島4-23-4-102 守田啓子宛 FAX017-723-5696



□ 2019.09.15 ㄨ FM青森チャレンジ川柳! むさし流!

毎週土曜日お昼12時から放送中! 入選→秀逸→特選と毎週3句を紹介。9月15日締切。10月放送【題】「火」【投句先】〒030-0812 青森市堤町1丁目7-19 (株) エフエム青森 チャレンジ川柳! むさし流! 係 ※FM青森のホームページからも投句できます。FAX:017-735-1186もOKです。



□ 2019.10.05 おかじょうき川柳社本社10月句会

【時】10月5日(土)午後1時~【所】アウガ5階小会議室【宿題】(各題3句詠)『小』/『システム』/『自由詠』選者は当日決定【席題】1題3句詠・2人共選【研究吟】自由詠1句【投句締切】句会前日必着【投句先】〒030-0861 青森市長島4-23-4-102 守田啓子宛 FAX017-723-5696



※この用紙を切り取るか、コピーしてお使いください。

会員雑詠「無人駅」投句用紙

柳号

住所

府 都 道
県

町 区 市
村

※楷書でハッキリとお書きください。

★お気に入りの一句(最新号からお好きな作品一句と、それに対する簡単なコメントをお書きください。)

コメント

【投句先】
〒030-0861
青森市長島4-23-4-102
守田啓子 宛
FAX.017-723-5696

■会費拝受（6月受付分） ※太字は新会員

夏草ふぶき・宮古中子（青森市） / 高田幸柳（十和田市） / **芝岡勘右衛門（神奈川県）** / 工藤比呂美（外ヶ浜町） / 斎藤早苗（弘前市） / 郷田みや・大葉美千代（愛媛県） / 越田清四郎（東京都）

■おかげょうき川柳社 会員募集中！

会員ならびに当誌購読希望の方は、下記の口座までお振り込み下さい。

→郵便振替 No.02280-6-43112 口座名：おかげょうき川柳社

→会費：6,000円（1年分）

おかげょうき川柳社 お問い合わせ先

●投句以外のことについてはこちらへ●

熊谷冬鼓 toko@okajoki.com FAX.017-752-3759

●投句全般についてはこちらへ●

守田啓子 moriko@okajoki.com

〒030-0861 青森市長島 4-23-4-102 FAX.017-723-5696

--- 終着駅 Sin ---

◆今年も無事に(?)川柳ステーション2019を終えることが出来た。川柳コロシウムという昨年からの実験的イベントに参加してくれた方々にも感謝、感謝である。川柳コロシアムの形式が知れたせいか、事前投句数も少なくなったが(笑)◆前年の反省も含めて、討論が散らからないように、「推薦」「批評」「反論」とそれぞれの時間にテーマを割り当てて発言してもらい、時間も1分から40秒に縮め、テンポを大事に進めようと思った。昨年よりは観覧しやすい感じになったと思う◆あと、応援弁士の選考方法が昨年からの話題になったが、例えば8票入った作品の応援弁士をその8人の中からどのように選ぶか、その8人が全員ベスト8に残っていたらどうするのか。いろいろなシミュレーションを重ね

て、今の方法に至っている。敗者が応援弁士にまわるという仕組みとしては、1回戦は必ず足して17の組み合わせとなり、順当に行けば、1位の作品を16位が応援し、8位を9位が応援する。というように、作品の高低差を弁士の高低差でバランスをとる形となっている。全部計算通りにはいかないが、勝負が面白くなるように均衡する配慮があのトーナメント表に含まれていると理解していたきたい◆あと、偶然か、確信犯なのかわからないが(笑)、2年連続で川柳コロシアムのベスト8に残りながら、討論前に中座した高瀬霜石さん。進行に支障が出るので、いなくなるのであれば、早めにスタッフに言っていたきたい(汗)来年は、ぜひとも霜石さんの討論も聞いてみたいと思っている◆Sin

第24回

杉野十佐一賞
作品募集

課題/締切

「れい」(一人2句まで) / 2019.9.30✕

選者

徳永 政二 (滋賀県/「びわこ番傘川柳会」所属)

なかはられいこ (岐阜県/「ねじまき句会」所属)

樋口由紀子 (兵庫県/「晴」編集発行人)

広瀬ちえみ (宮城県/「杜人」所属)

吉松 澄子 (愛媛県/第23回杉野十佐一賞大賞受賞)

むさし (青森県/おかじょうき川柳社 代表)

投句料

1,000円

(発表誌をもって投句料領取したものとさせていただきます/締切日まで投句料が入金された場合のみ作品を受け付けます/切手不可)

応募方法

【郵送の場合】

投句用紙または便箋・原稿用紙に「作品(2句まで)」「郵便番号」「住所」「氏名または雅号(ふりがな)」「電話番号」を明記し、投句料を同封のうえ、下記応募先まで郵送してください。

〒030-0861 青森市長島 4-23-4-102 守田方

第24回 杉野十佐一賞 係まで

【インターネットでの応募】

http://okajoki.com/tosaiichi/contest/へアクセスし、作品応募フォームから必要事項を記入して送信してください。送信後、締め切り日までに下記口座に投句料1,000円をお振り込みください。

◆振込先:郵便振替 No.02280-6-43112 口座名 おかじょうき川柳社

発表

月刊おかじょうき 2020年1月号の誌上において発表。

サイト掲載:2020年1月中旬

賞

上位入賞者に青森県特産品を贈呈。

諸権利について

基本的に著作権は作者に帰属しますが、著作権、雑誌掲載権など、作品を自由に利用できる権利は、おかじょうき川柳社に帰属します。

その他注意事項

※作品は応募者の自作で未発表のものに限ります。※郵送でのご応募作品は返却いたしませんので、必要な方はコピーをおとりください。※応募された原稿に関するお問い合わせや、審査結果の問い合わせには応じられません。※個人情報については、許可なく他の目的で使用することはありません。

2019年8月10日発行(年12回発行) 第23巻第8号通巻306号
●発行人/むさし●編集/Sin●発行/おかじょうき川柳社●表紙題字/金子榮風
青森県東津軽郡外ヶ浜町宇蟹田中師宮本2の3 ●TEL&FAX:0174-22-2119 ●E-Mail:info@okajoki.com